

# 町自連まつえ

平成27年1月1日 発行 第18号

■発行／松江市町内会・自治会連合会（略称：町自連まつえ）

ごあいさつ

松江市町内会・自治会連合会

会長 佐々木 武男

新年おめでと  
うございます。

申し上げます。

昨年十一月二十二日深夜、長野県北部で最大震度六弱の地震が発生いたしました。長野市や白馬村などで住宅五十四棟が全半壊したほか負傷者は四十五名の内十名の重傷者のみで奇跡的に一名の死者なく救出されました。平

皆様のご多幸と  
ご活躍をご祈念

素、地域活動で互いの連帯感がこの結果を生んでいます。ここにこそ私たちの活動の存在感があります。今、個人情報云々などと近隣の情報に疎い現状があります。しかし、いざという時に役立つ仕組みを考え工夫しておく必要があります。

年末の総選挙

によって新しい民意が示されました。謙虚に着実な政治が進められることを期待いたします。

今、私たちの社会は、大きな岐路に立たされています。戦後、豊かさを求めて多くのインフラの整備を進めてきました。そして当然のようにその恩恵を受けました。しかし、社会の構造的変化の中で先年來「持続可能な社会」と言われるようになりました。

松江市においても将来の展望に立て、諸々の見直しが行われています。もちろん困難な課題がありますが乗り切らねば将来への展望は開けません。そしてその主体者は住民一人ひとりであります。身近にある諸課題に真摯に向き合い合ってゆくことが大切と考えています。

## 松江市長挨拶

松浦正敬



新春を

迎え、  
市民の皆様には  
ますますご健勝のこととお慶び  
申し上げます。

新春を迎えることとお慶び申し上げます。厚

は、市政の円滑な運営にご協力をいた

だき、誠にありがとうございます。厚

くお礼申し上げます。

昨年平成二十六年は、プロテニスプレイヤー錦織圭選手の大活躍が記憶に新しく、松江市出身のスポーツ選手の活躍に胸踊らせた一年でした。市民のみなさんにとって同選手の活躍は、同郷

であることを誇りに思うと同時に、郷土松江を強く意識するきっかけとなつたのではないか。

さて、新たな年を迎え、平成二十七年は、中国横断自動車道尾道松江線の全線開通により山陽のみならず、瀬戸内しまなみ海道を通じ四国方面を含めたアクセスが向上します。人、物の流通環境が大きく変わり、この大きな流れを地域経済の成長につなげなければなりません。さらに、大規模災害への備えや、定住人口の増など本市を取り巻く情勢の変化への対応、課題への取り組みが求められています。

こうした状況の変化、課題に対応するためには市民と行政が一体となつた取り組みが極めて重要です。「平成の開府元年まちづくり構想」では、市民

と行政が対等な立場で発想段階から共に創る「共創」の手法によるまちづくりの推進についてうたっています。共創・協働の最大のパートナーである町内会・自治会のみなさまとの連携を密にし、一歩ずつ成果を積み上げていきたいと考えています。

松江に暮らす私たちが、日々の暮らしの中で人との「縁」、「輪」を感じ、「松江らしさ」を見つめ直し、故郷への愛着と誇りを感じることが、まちづくりの一番のエネルギーになるものと確信しています。

市民のみなさまと共に、松江の魅力を活かしたまちづくりを進めていく所存ですので、市民のみなさまのご理解とご協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

今年も様々な課題に取り組んでまいりますので  
よろしくお願ひいたします。

松本光弘 （朝日地区） 常任理事	寺本修己 （美保関地区） 副会長	熊谷和恭 （古志原地区） 副会長	後藤院一 （竹矢地区） 副会長	三島健治 （城西地区） 副会長	佐々木武男 （雑賀地区） 会長
松浦久義 （忌部地区） 理事	石倉國男 （津田地区） 監事	大野美雄 （城北地区） 監事	小数賀安富 （法吉地区） 常任理事	久保田明雄 （川津地区） 常任理事	勝部廣三 （玉湯地区） 常任理事
荒木邦典 （大庭地区） 理事	神庭嘉孝 （乃木地区） 理事	今井隆良 （白瀬地区） 理事	多久和宣久 （大野地区） 理事	藤原二郎 （島根地区） 理事	井上寛巳 （持田地区） 理事
宮廻務 （宍道地区） 理事	吉岡繁春 （秋鹿地区） 理事	野津厚 （生馬地区） 理事	池田太持 （朝酌地区） 理事	安部吉輝 （八束地区） 理事	月坂守保 （本庄地区） 理事

### 視察研修の受入

○吳市自治会連合会（二十名）

平成二十六年十月二十三日（木）

【テーマ】自治会加入促進 等



○宝塚市自治会連合会・環境保健衛生  
推進協議会（四十名）

平成二十六年十二月三日（水）

【テーマ】姉妹都市交流 等





大口町の小学生はこの碑文を暗誦し、大口南小学校は橋があつた名古屋の白鳥小学校と姉妹校として交流し、町は春に金助桜まつりをして堀尾家を偲ばれます。

鈴木町長も子供の時に大口南小学校で裁断橋の碑文を学んだ生徒でした。

## 自治会加入のすすめ

松江市町内会・自治会連合会

副会長 熊谷 和恭

空にはジェット機が飛び交い、陸では高速道路を車が、鉄道では新幹線が走り、世の中はスピード時代になりました。しかし、人間の歩く速さは永遠に変わりません。便利さ速度を追い求めるのはいいが、それに埋没してはいけないでしようか。

人と人のつながりもそうです。通信機器の発達は目覚ましく、時間を使って人に会いに行く必要も少なくなり、メール、電話で殆どことが足ります。相手の目、表情などで感ずる心や、いわゆる「阿吽の呼吸」などはどこへ行つたのでしょうか。無表情な人間が増え、人を傷つけることが平気でできる人間が増えつあります。今こそ、人間とは何かということを見つめ、人間の歩く速さが永遠に変わらないことをもう一度振り返って見ようではあります

せんか。それが人の営みの原点になるのではないかと思います。

そういう観点で地域を見たとき、自治会加入率六十四・五%は妥当な数字でしようか。便利な世の中は、人の助けなんか借りなくても普段の生活はできます。数千円の会費を負担して自治会へ加入するメリットはあるのかと思つてゐる人もいます。本当にそれでいいのでしょうか。

実は、私たちが住んでいる地域は、

一人では絶対にできない共同活動で成り立っています。これは地球に人類が生まれてからずっと続いている人間の営みです。決して人間は一人では生きられない。「向こう三軒両隣の親密な付き合い」は永遠のものです。

三・一一東日本大震災後、「絆」という言葉が使われ、お互いの「つなが

た堀尾吉晴公の事跡が少なく、遠い出雲国に築かれた松江城天守閣や城下町、月山城跡の吉晴公の墓がよすがとなつて、大口町の史跡公園には巖倉寺（安来市広瀬町）の墓地から移植した桜や松江市の椿が植えられています。

大口町には若くしてふるさとを離れた堀尾吉晴公の事跡が少なく、遠い出雲國に築かれた松江城天守閣や城下町、月山城跡の吉晴公の墓がよすがとなつて、大口町の史跡公園には巖倉寺（安来市広瀬町）の墓地から移植した桜や松江市の椿が植えられています。

堀尾公のご縁を大切にして市民レベルでも松江市民と大口町民が交流の輪を広げたいと思います。

（視察研修プロジェクトメンバー）

寺本修己、石倉憲昭、松浦正明、久保田昭雄、小数賀安富

り」を大切にしようという雰囲気が日本中に満ち溢れています。しかし三年たつた今、その言葉や心はどこへ行つたのでしょうか。まさに「のど元過ぎれば熱さを忘れる」現象です。

そのような折、長野県北部で大地震が発生しましたが、日頃から培つてきた地域の強い結びつきが「死者ゼロ」という結果につながつたのではないかと云われています。

昔は考えられなかつたような悲惨な事件が頻発する昨今、人と人のつながりこそが、その抑止力の一つになります。その基盤になるのが自治会組織であり、それに基づくつながりが地域の力を生みます。

今こそ自治会の意義を見直し、全住民の加入を目指したいものです。未加入者の意識変革は勿論ですが、それを取り巻く隣人も傍観者ではなく、危機感を持ち、より積極的に加入促進に取り組んで行こうではありませんか。

安全安心なまちづくりを目指して！

### 編集後記

皆さん、ご存知ですか？あのSF映

画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」

の未来の設定が二〇一五年であるということを。ついに、私たちは未来の夢の国に近づいたのですね。

映画の話は仮想の世界としても、最

近の情報伝達手段の急激な拡がりには目を見張るものがあります。しかし、注意を払わないと間違った情報、危険な情報まで鵜呑みにしてしまいかねません。

さて、この度の編集にあたりまして、

松江市町内会・自治会連合会の中心的活動内容や関連する情報を、できるだけ分かり易く、簡潔に、しかもどなたでも読んでいただけるように工夫させて頂きました。是非、隅々までご一読下さい、町自連の活動にご理解頂き、地元の町内会・自治会活動にご参加下さい。されば、編集者としてもこの上ない喜びでございます。



編

集 「町自連まつえ」広報担当者

熊谷 和恭・松本 光弘

町自連事務局

（松江市市民生活相談課内）